

奥田謙蔵の家譜の調査

松岡 尚則^{1,2,3,4)}, 栗林 秀樹⁵⁾, 別府 正志⁶⁾, 山口 秀敏⁷⁾
 中田 英之⁴⁾, 岩井 祐泉⁸⁾, 並木 隆雄⁹⁾
 秋葉 哲生¹⁰⁾, 牧角 和宏¹¹⁾, 三浦 於菟¹⁾

¹⁾東邦大学医学部総合診療・急病講座, ²⁾愛宕病院, ³⁾高知総合リハビリテーション病院
⁴⁾練馬総合病院, ⁵⁾越谷大袋クリニック, ⁶⁾東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター
⁷⁾信州医療福祉専門学校, ⁸⁾吉祥寺東方医院, ⁹⁾千葉大学大学院医学研究院和漢診療学
¹⁰⁾伝統医学研究会あきば伝統医学クリニック, ¹¹⁾牧角内科クリニック

【緒言】 奥田謙蔵(1884-1961)は、明治十七年四月十三日に四国丸亀に生まれ、昭和三十六年三月九日千葉県市川市菅野においてその生涯を閉じた。秋葉哲生は『東西医学の交差点 その源流と九つの診断系』の中で、「謙蔵の生家、丸亀の三井家は、三井新兵エ重行以来、代々の医家であった。家譜によれば、新兵エ重行の三代後の惟親は高松藩医として藩主に仕え、以後、代々の藩医を務めていた。奥田謙蔵は三井新兵エ重行から数えて九代目にあたる。」と記載している。今回、奥田家および三井家について、調査を行い、その人物、家譜について考察を行ったので報告する。

【方法】 三井家、奥田家に関連する書、論文を調査した。日本古典籍総合目録のデータベースを利用し、三井家関連書を調査した。鎌田郷土博物館、国立国会図書館、財団法人研医会図書館、武田科学振興財団杏雨書屋、千葉大学、京都大学、九州大学所蔵の資料を調査した。また、三井家に関連する琴平町内の碑文、文物、大井八幡神社を現地にて調査した。さらに、丸亀市の法音寺で三井家累代の墓碑を調査した。

【結果】 日本古典籍総合目録のデータベース上に、三井雪航『積奠式並十哲從祀図』・『雪航詩鈔』、三井良之著、善之補『眼科方函』・『眼目外障篇』、三井良之『梧陽堂針術秘訣』・『三家学海』・『三井眼科書』、三井竹窓『献芹録』、黒木千之『眼科秘伝』・『濟明図鑑』・『濟明図鑑附録』・『濟明方函』・『方論』を認めた。鎌田郷土博物館には、「三井元孺ニ関スル文章」を認めた。研医会図書館では、3種の三井良之『眼科方函』、『筑前須恵田原家一子相伝眼科秘書』、『金匱要略句解』、『大阪三井元孺眼外障方函』を認めた。千葉大学には、三井可亭『眼科濟明』、三井可亭『濟明図鑑』、三井元孺『眼科発微』、三井良之編・長井次郎宗盛 筆写『眼科方函』を認めた。武田杏雨書屋では黒木千之『濟明方函』、三井元孺編『梧陽堂秘録』、三井□著『梧陽堂針術秘訣』、英国 合信・清 管茂材同撰 江戸 三井孤鳳摘録『西医略論』、三井眉山『眉山先生眼目図説』、三井□著『三井家眼目書』、清眼録江戸 著者未詳『清眼録』・『陽堂方轍』、江戸 著者未詳 写本「三井家」宗亭所蔵 印アリ『今昔珍変類聚』、黒木千之著『濟明図鑑』を認めた。京都大富士川文庫では黒木千之『方論』を認めた。九州大学に、黒木千之『眼科秘伝』、黒木千之『濟明図鑑附録方論』、黒木千之『方函』を認めた。また、絵師大原東野が丸亀街道の道を修復する時に犠牲になった蟲を供養するために建立するため三井雪航の撰した蟲塚の碑文(文政十一年(1828))を金刀比羅宮北神苑に認めた。さらに三井雪航の書を大井八幡神社に認めた。法音寺では三井公圭の略歴が示され、千葉古方はシーボルトや吉益の門に繋がる医学であることが判明した。

【総括】 千葉古方の源流である奥田謙蔵の家系(奥田家、三井家)とその学風をみた。三井家は讃岐に発する眼科の家系であり、大阪三井家、高松三井家、琴平三井家に別れて、繁栄をみた。奥田家につながる三井家は高松三井家の分家の流れとなっていた。奥田謙蔵の祖父の三井金鱗(公圭)、琴平三井家の三井雪航、高松三井家の三井篤親たちは、すべて大阪三井家の三井棗洲(元孺)(善之)に学んでおり、類似の名を記す世代もあることから、三井家互いのつながりは近代に到るまであったと考えられた。三井家は単に眼科に収まらず、広く学問を学ぶ家風を持っていたと考えられた。千葉古方の源流は吉益流や眼科のみに留まらず、広く日本の医学を集大成したものとして考えても良いと考えられた。